

水のおいしさの秘密は水源にあり



清らかな水をはぐくむ蔵王連峰

前ページの検査結果から、白石の水は安全で、おいしい水といえるのではないだろうか。それでは、なぜ白石の水はおいしいのでしょうか。実はその秘密は水源にあります。

白石市は岩の上、三住、二ツ森の三方所に伏流水とわき水の独自の水源を持っています。

普通、水道水は川から取水しており、下流に行けばいくほど、上流の町で使った家庭用排水などが混ざり、水質が悪くなります。しかも安全性を確保するために、殺菌用に注入する塩素の濃度を上げなければなりません。

しかし、わき水や伏流水は、長い長い時をかけて、地中深く、ゆっくりとろ過されてきた水ですから、自然界の自浄作用で、有機物はバクテリア（細菌）によって分解され取り除かれて、適度にミネラル分が溶け込んだ清らかな水となっているのです。私たちは蔵王山によって、数百年かけて浄化された地上に出てきた水を、ほとんどそのままの状態であめるところに住んでいるのです。

また、七ヶ宿ダムを水源とする広域水道についても、ダムの上流やダムの近くには工場などがなく、蔵王を通ってきた新鮮な水がほとんどそのままダムにたまっていくので、衛生的な水を供給することができるのです。

森は水をしるる 緑のダム」です

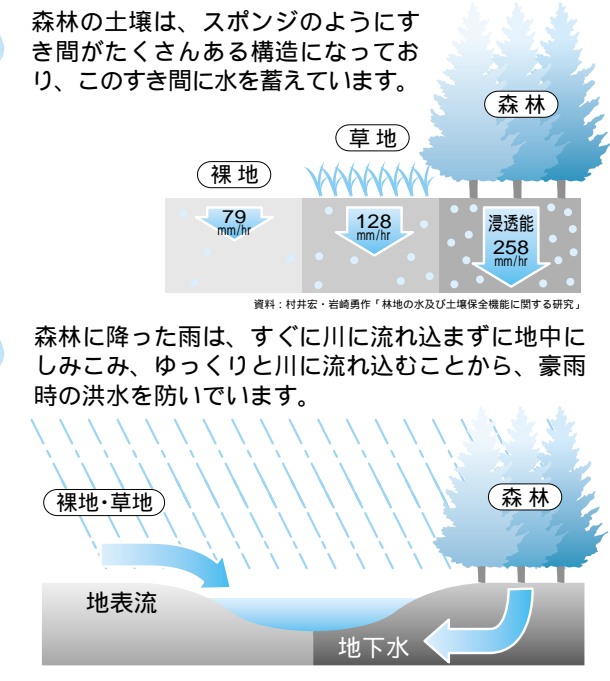
森は、私たちの暮らしに大切な役割を果たしています。

- 大気の保全
（地球温暖化に影響を及ぼす二酸化炭素を吸収し、酸素を供給します）
- 野生鳥獣の保護
（野生の鳥獣にとつての貴重な生息の場です）
- 保健休養の場
（森林浴などのリフレッシュの場、野外教育・環境教育の場です）
- そして、水源のかん養です。

水源のかん養

森に降った雨は土の中にしみこみ蓄えられ、川や地下水などの水源になります。このとき、森の土壌がフィルターの役割をし、不純物をろ過し、岩などのミネラル分が溶け込んだおいしい水となつて、ゆっくりと水源の原水となります。これを水源かん養機能といえます。

この保水機能のおかげで、森林の土壌は、大雨のときには雨水を一時的に吸収して河川の洪水を防ぎ、雨が降らないと



きには貯留していた水を河川に徐々に供給し、河川の水量をできるだけ一定に保つ、すなわち、川の流れを平準化する働きを持っています。この働きが、森は「緑のダム」と呼ばれる由縁です。特に、ブナなどの落葉広葉樹林は保水能力が高く、山の中に蓄えられた水は、わき水として安定的に供給されます。

水源を守って43年

下戸沢簡易水道施設管理補助員 阿部嘉一さん（77歳・小原）



下戸沢簡易水道は、昭和三十年に戸沢川の表流水を取水して開始されました。私は昭和三十三年から補助員として水道にかかわってききましたが、このころは雨が降ると、ろ過槽に泥がたまり、目詰まりしてすぐに断水。復旧のための泥上げや、ろ過作業が大変でした。

でも、昭和四十四年に上寒成山中腹のわき水が水源となつてからは、みんなも水を大事に使うようになったこともあって、故障以外での断水はなくなりました。夏の間、まれに配水池の水量が不足することがあります。そんなときは、バルブの弁を調整して断水にならないように心掛けています。これも長い経験から得たこともかもしれません。

現在は、毎日の配水池の巡回と残留塩素の測定をはじめ、約五十世帯の水道メーターの検針、水源から配水池までの導水管路の点検などを行っています。

下戸沢の水は清らかです。水源地がよくサンショウウオを見かけることがありますから……。あつという間に四十年以上が経ちましたが、これからも下戸沢の清らかな水を守っていきます。



配水池周りの草刈りをする阿部さん



濁りのほとんどない三住水源の着水井(右)と濁度計

「緑のダム」づくりに 取り組んでいます

NPO法人 蔵王のブナと水を守る会

「蔵王の残り少ない落葉広葉樹林の伐採を止める」こと、植林活動によって、「森の復元を行う」ことを目的として、昭和六十一年に「蔵王のブナと水を守る会」が発足しました。平成二年、国立南蔵王青少年野営場での森づくりが県から認可され、グリーンレンジャーという実働班を編成し、本格的な森の復元活動がスタートしました。野営場を中心とする南蔵王山ろくの荒地に、これまでに約三万本の落葉広葉樹の植林活動を展開。これらの活動が実り、荒地は確実に緑の山へと向かっています。

また、平成十年からは、広く一般の方々からの支援を募って蔵王の荒地を取得し、その荒地を緑豊かな森へ復元して後世に残していくという「ナショナルトラスト運動」にも取り組んでいます。

平成十一年三月には、東北地方で初のNPO法人（特定非営利活動法人）として認証されました。現在は、森づくりの技術などを次世代に伝えるために「森の教室」（毎月第4日曜日）を開催するなど、自然保護運動を積極的に展開しています。

問い合わせ（事務局） 秦 静枝さん

☎ 24・5579